

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助演習Ⅳ Seminar of Social Work Ⅳ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(社会福祉士国家資格取得のための必修科目)	社会福祉フィールド以外、履修不可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家資格取得に必要な科目や社会福祉学に関連する科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊 信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。				
授業の目標				
①基本的な相談援助面接の開始から終結までを展開できるようにする。 ②これまでの相談援助演習Ⅰ・相談援助演習Ⅱ・相談援助演習Ⅲで学んだ知識、技術の理解をでき、応用できるようにする。 ③自らの体験を踏まえ、相談援助面接の留意点を指摘できるようにする。				
授業の方法				
演習形式で行う。必要に応じて小テストを実施する。 相談援助演習Ⅲに引き続き、グループディスカッションを実施する。また面接技術習得のためのロールプレイングも行う。				
学習の成果（学習成果）				
①生活場面で利用者のエンパワメントを高める技法を身につけることができる。 ②利用者主体の援助のために相談援助の専門職としての課題を検討することができる。 ③理解したことを他者に伝える能力を養い、また相互交流によって多面的な理解も学ぶことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の進め方、留意事項、成績評価等） 相談援助演習Ⅲの振り返り			
第2回目	プロセスレコード1 プロセスレコードとは			
第3回目	プロセスレコード2 学生個人発表			
第4回目	プロセスレコード3 学生個人発表			
第5回目	プロセスレコード4 学生個人発表			
第6回目	スーパービジョン1 スーパービジョンについて			

第7回目	スーパービジョン2 スーパービジョンの機能について	
第8回目	スーパービジョン3 スーパービジョンのこれからと課題	
第9回目	事例研究：障害のある人と地域住民とのつながり 地域福祉の展開	
第10回目	事例研究：障害のある人とささえる人とのネットワーキング	
第11回目	事例研究：家族への支援	
第12回目	事例研究：精神障害者への支援	
第13回目	対人援助者としての姿勢・態度について（1）	
第14回目	対人援助者としての姿勢・態度について（2）	
第15回目	授業のまとめ 面接を通しての利用者理解と利用者から学ぶこと	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	30%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。
レポート	30%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	40%	自分の担当箇所に責任を持つこと。テーマについてレジュメを作成し、根拠(エビデンス)に基づき発表すること。
その他		
教科書と参考図書		
福祉臨床シリーズ編集委員会編 『相談援助演習』 弘文堂 他 授業中に指示し、資料を配布します。		
履修上の留意点・ルール		
一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		